

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成29年3月9日 NO.99 (399)

オー君 「もうすぐ3学期が終わり、4月からは進級するんだね。」

花ちゃん 「春休みが楽しみだわ。フッタ博士、この一年を振り返って感想をどうぞ！」

フッタ博士「モンタ星からモンタ博士に呼ばれてここへ来たけど、とても楽しかったよ。新しい発見や珍しいおもしろい体験もしたし。」

オー君 「例えばどんなことですか？」

フッタ博士 「ベスト3を挙げるとね、第3位は“いろいろな生き物と触れあえたこと”。七小の子供たちが、次々に見つけた生き物を見せてくれるから、『今日は何が届くんだろう？』ってわくわくしたよ。」

花ちゃん 「青いサワガニや大きな蛇

(アオダイショウ)、
生きたモグラとか、
ホントにいろいろ。」

エサないか？
はらへった。



オー君 「貝のコレクションや
ネズミのしっぽまで…。
見守り会の方も虫
(クビキリギス) を
くれました。」

フッタ博士 「極めつけはカマキリのおしりから出たハリガネムシかな。」

花ちゃん 「第2位は何ですか？」

フッタ博士 「モンタ博士と舞台上で大道芸…じゃなくて、みんなに“科学ショー的な何か”を見てもらったこと。『イチョウの葉っぱで作る黄色い電気ネズミ』を実演したり、教室まで押しかけて『突然水が出る不思議なコップ』の実験をしたり。」

オー君 「ああ、白衣のコンビが給食中に乱入したっていう、アレですか。」

フッタ博士「モントラボで休み時間にやった『風船虫（コムズムシ）の実験』にも、大勢来てくれました。モンタ博士とプールで一所懸命すくったかいがありました。」

花ちゃん「モントラボは標本や動物の剥製があるお部屋ね。七小の子たちはそこでモンタ博士とお食事会をするんですね。」

オー君「では第1位は何でしょう？」

フッタ博士「う～ん、前にもてくてくのB面に書いたけど、“モグラの世話をしている噛まれたこと”かな。普通の人生でなかなか経験できることじゃないし。セミに刺されたことはあったけど。子供の頃、拾われてくるモグラは弱ったものばかりで、すぐに死んじゃったからね。」

オー君「モグラの毛皮はフサフサしてました。」

花ちゃん「触るチャンスはめったにないものね。」

フッタ博士「そうだね。七小のみんなが、身の回りの生き物をきっかけにして、様々なことに興味をもってくれるようになって、モンタ博士もとても喜んでいるよ。」

オー君「フッタ博士も小さい時から生き物や自然が好きだったんですね。」

フッタ博士「そうなんです！それでは、人生に影響を与えた一冊の絵本、『せいめいのれきし』を紹介するね。子供の頃、巻末の博物館の絵が好きで好きで、何度見ても飽きなかった。細かい所まで描き込んであって、想像力を大いに刺激されたんだ。将来、博物館学芸員の資格を取るようにになるとは思わなかったけど。」

花ちゃん「私も春休みに読んでみようかな。」

『せいめいのれきし』
バー吉ニア・リー・バートン文・絵
石井桃子 訳
真鍋真 監修
岩波書店

